あとがき

阿波学会 60 周年からはや 2 年が過ぎ、隔年発刊の第 2 号となりました『阿波学会紀要第 61 号 鳴門市総合学術調査報告』を無事上梓する運びとなりました。これもひとえに、阿波学会に熱い思いを抱き、不断の努力を続けてこられた各研究者の崇高な探究心の賜と敬服申し上げる次第です。今回の調査は徳島の玄関口、そして、八十八カ所発心の地である鳴門市で行われたということで、たいへん意義深いものになりました。阿波学会における県下市町村の調査が一巡し、阿南市に続いて 2 度目の調査となった鳴門市ですが、昭和 39 年の前回調査では鳴門市に含まれていなかった大麻町における調査が初めてなされました。また、半世紀を過ぎての再調査ですので当然大きく市の表情は変化しており、とりわけ動植物の姿は大きく変わりました。帰化植物の増殖やコウノトリの飛来など、最近の話題となったトピックスも調査対象となりました。また、古い記録や建物、遺物遺構の発掘・研究も進み、鳴門市における新しい貴重な発見が次々と見えてくる調査となりました。

阿波学会学術調査の素晴らしいところは一つの地域を自然,人文,社会と横断的に調査し,立体的にその地域の姿を明らかにできるところだと思います。このような調査研究をしているのは全国的に見ても非常に珍しく,阿波学会はその数少ない学術団体の1つといえます。今後,県下の他の市町村でも再調査が続いていくわけですが,この学術横断的調査に前回の調査との比較をすることで,さらに「時間」が加わり時空的にも地域を立体視できる調査となっていきます。このように時間を超えて総合学術調査が進むことで,阿波学会の意義はこれまで以上に深くなっていくと確信しております。地域ごとに違う年の阿波学会紀要を積み上げていくことで,徳島県を多次元的に描ける日も遠くないと思います。今後ますますこの学会が発展し,徳島県の貴重な記録としてこれからも多くの素晴らしい研究結果が積み上げられていくことを願ってやみません。

末筆にはなりましたが、阿波学会紀要第61号作成に当たり多大なご協力とご支援を頂きました鳴門市および鳴門市民の皆様に編集者一同を代表いたしまして心より深謝申し上げるとともに、鳴門市の益々のご発展を心より祈念申し上げる次第です。

(阿波学会紀要編集委員長 川添 和義)

阿波学会紀要第61号『鳴門市総合学術調査報告』編集委員

委員長 川添 和義

副委員長 中野 真弘 山本 裕史

委 員 石尾 和仁 岡山真知子 小川 誠 喜多 順三

仙波 光明 髙橋 晋一 長澤 寛二 西山 賢一

羽山 久男 堀江 秀茂 萬宮千鶴子